

おおさか文化遺産めぐり その219

鎌倉時代から続く小谷家の屋敷で 美術工芸品や古民具などを展示



小谷城郷土館は、堺の古城の一つである小谷城跡に建てられた小谷家の屋敷を活用した資料館です。堺にまつわる歴史・美術工芸品や古民具など約3000点を所蔵し、一般公開しています。

幕末の黒船来航の頃に作られた甲冑(中央)。4月中旬から5月初旬には五月人形も展示される

浜寺と千早赤阪村を結ぶ狼煙の中継地点

小谷家は鎌倉時代初期、平清盛の異母兄弟の血筋を引く平頼晴が、仁和寺の寺領であった若松荘(現在の堺市南区)に赴任したことはじまりです。一族は三つの城を居城として構え、その一つが小谷城でした。

南北朝時代には南朝方に属し、小谷城は千早赤阪城と、堺市浜寺付近にあった大雄寺を結ぶ位置にあったことから、情報伝達のための「狼煙」の中継地点として重要な役割を担いました。しかし戦国時代、織田信長軍との戦いで1575(天正3)年に落城します。その後、小谷家は天正10年の陣・夏の陣で徳川方として功績を挙げ、江戸時代にはこの地域を治めていた伯太藩渡辺家に仕え、代々庄屋を務めました。

民俗学研究に情熱を注いだ小谷家39代方明氏

明治末に小谷家39代目と

国の登録有形文化財となっています。

三つの展示エリア

館内は三つの展示エリアに分かれています。門長屋の東側では、泉州地方の山間農村で使われていた耕作・畑作・山林用具や漁具などを展示し、西側には、昔の台所用具や暖

房具のほか、須恵器や古瓦などの考古資料が並びます。主屋は1700年代中頃に建てられた建物で、小谷家に伝わる堺ゆかりの歴史・美術工芸品を展示。堺銃を中心とした鉄砲、武器、屏風や陶磁器、堺更紗など見どころがいっぱいです。

4月18日から5月6日まで五月人形も飾られます。



- 1 小谷家代々の歴史・工芸資料を展示した主屋
- 2 堺の伝統工芸「湊焼」
- 3 堺県の刻印のあるゲバール銃(ヨーロッパ銃)と、手前は捕鯨用のモリを発射する銃。和歌山県太地町からの注文品と伝わるもの
- 4 明治以降に織られたと思われる堺更紗
- 5 多種多様な農具や漁具を展示

1930(昭和5)年には、小谷家の蔵書研究と出版活動を兼ねた「和泉郷土文庫」を設立し、冊子『郷土和泉』を創刊。2年後には和泉の寺院を巡って採集した古瓦を紹介する『和泉古瓦譜』を発表しました。

また、民俗学者の柳田国男に師事し、大阪民俗談話会に参加するなど、研究者たちとの交流も深めていきます。

戦後は村会議員や保護司などを務めるかたわら、歴史資料の収集と民俗学の研究を続け、1971(昭和46)年に小谷城郷土館を設立。その後、財団法人小谷城郷土館へと組織変更されました。

現在、主屋や門長屋などは

大阪府ウォーキング協会主催 大阪シティ信用金庫協賛

今月のおすすめウォーキング

4月のコースから一部をご紹介します

4月 曜	行事名	距離	最寄り駅・集合場所	集合時間	解散場所
8日 水	大川沿いから造幣局の桜を観る	10km	大阪メトロ 淀屋橋駅 大阪市役所南側	10:00	JR 桜ノ宮駅
12日 日	「泉北緑道ウォーク」 泉北の緑道を歩いて公園めぐり	8km	南海 梅・美木多駅	9:45	南海 泉ヶ丘駅
15日 水	いにしへの野田藤観賞	10km	大阪メトロ 淀屋橋駅 大阪市役所南側	10:00	JR 西九条駅
21日 火	京街道一なにわその1(街道シリーズ④) 昔の人は偉かった	12km	京阪 淀屋橋駅 大阪市役所南側	8:45	京阪 守口市駅
26日 日	大阪環状線 駅からウォーク なにわの“橋”めぐり	8km/12km	JR 西九条駅	9:45	JR 桜ノ宮駅

※参加費500円 事前お申し込み不要です。会場へ直接お越しください

Data

小谷城郷土館

〒590-0106 堺市南区豊田 1602
TEL : 072-296-8435

[入館料] 大人 200円
[開館時間] 10:00 ~ 16:00
(最終入館は15:45まで)

[休館日] 月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始など

[アクセス] 南海泉北線泉ヶ丘駅から畑行き
または鉄ヶ峯行きバス「豊田南」下車、徒歩5分